様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｈ０３２５５

研究課題名（和文）近現代アルペン―アドリア・ボーダーランドにおける国境編成と住民論理のポリティクス

研究課題名（英文）Boundary Demarcation and Local Politics in Modern and Contemporary Alpine-Adriatic Borderlands

研究代表者
小田原　琳（Odawara, Rin）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：７０４６６９１０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　7,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、19世紀半ばから20世紀前半において、ヨーロッパでもっとも頻繁に、軍事力をともなう稀な強度で国境編成と再編、国民化の運動を経験したアルペン－アドリア地域において、近代化・資本主義化の経験や、戦争・外交による国境の再編成に際する住民の生活実態の変化を、それに対する住民の主体的戦略に注目し、「ネイション（国民）帰属に対する無関心」テーゼ（P.ジャドソン、T.ザーラ）を参照しながら分析を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義
ジャドソンらによればボーダーランドの住民たちは、ネイション（国民）化政策として提示された福利をみずからの利益を最大化するために利用したのであって、ネイション（国民）への文化的・心理的同一化を基準としたのではないとされる。本研究の学術的意義の第一は、19世紀末から20世紀前半にかけてのアルペン-アドリア地域においてこのテーゼに関連したかたちでの知見を蓄積できたこと、第二に、ローカルなレベルで住民の戦略的実践に着目すると、同テーゼでは十分に説明できなかったジェンダーや階級などの諸要素が交錯して実践の範囲を規定することを明らかにしたことである。

研究成果の概要（英文）：In this project we historically investigated how the population of the Alpin-Adriatic region in 19th and 20th centuries, when the region had experienced repeated demarcations with several conflicts, struggled with modernization / capitalization / nationalization movement in order to make it for their own interest, referring to the 'National Indifference' thesis of Pieter Judson and Tara Zahra.

研究分野：歴史学

キーワード：境界　国民　戦争　国境

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

ネイション・ナショナリズム研究においてゲルナーをはじめとする近代論者は、ネイションを近代化・産業化の過程でナショナリズムから生み出された「想像された共同体」（B.アンダーソン）として析出し、「実体概念としてのネイション」という認識論的枠組みを覆すことに成功した。しかし歴史研究においては、ネイションを構成主義的なものとみなしながら、分析・考察においては「ドイツ人」といった集合名詞を使い、実体概念のように用いることがしばしば見られる。これに対して R.ブルーベイカーは、ネイションやエスニシティという言葉を用いずに、「想像された共同体」の縁あるいは外側にいる個人の歴史をとらえ、彼らのグループ性を偶発的で流動的な共同体としてとらえなおそうとしている。歴史学からの試みとしては、P.ジャドソンや T.ザーラが、境界線を設け、内と外を明確化するネイション化の機能の臨界として、空間的な境界領域に着目し、近代化・産業化以降も「ネイション（国民）帰属に対する無関心さ national indifference」が持続していることを指摘した。

２．研究の目的

本研究で対象としたティロール南部から東アルプス、イストリア半島にかけての諸地域（アルペン-アドリ地域）は、19 世紀後半から 20 世紀前半にかけて、ヨーロッパでもっとも頻繁に、軍事力をともなう稀な強度で国境編成と再編、国民化の運動を経験した「歴史的地域」である。上記の研究背景に基づくならば、以下の課題があると考えられた。①ヨーロッパ史上でも稀有な歴史的重層的境界地域において、近代化・資本主義的産業社会化、戦争にともなう国境の（再）編成に際して、住民の生活実態にはどのような変化が及ぼされたか〔境界地域の歴史的理解〕、②そうした外在的な変化に対して地域住民がどのような戦略をとり実践したか、その際に「ネイション（国民）帰属への無関心」はどのように機能したか〔行為主体としての地域住民〕、③それらの歴史的経験と記憶はどのように叙述・継承されたか〔記憶〕を検討することが課題として浮上する。これらを明らかにすることを通じて、④国民国家という外形では把握することのできない重層的なアイデンティティを明らかにし、⑤国民国家に収斂する歴史叙述の克服を目指すことが研究目的であった。

３．研究の方法

行政文書、結社機関紙や地域紙、日記・文学作品等の分析を通じ、

(1) ティロール南部から東アルプス地域の 19～20 世紀にかけての国家体制の変遷や戦争、ネイション化政策と住民意識の関係、ネイション化の運動に回収されない言論空間の形成をドイツ系、イタリア系、ラディーン系、スラブ系住民と比較する形で検討する。
(2) アドリア海沿岸の、両大戦を含む繰り返された国境変更と住民移動、イタリア王国から共和国への変遷過程において、「未回収地」をめぐるナショナルな認識の変化、第二次大戦後のイストリア半島とイタリア共和国の統合論理／政策、ファシズムの過去との分断と戦後のナショナル・アイデンティティ形成を、ジェンダーや階層に留意しつつ明らかにする。
(3) 多言語混住地域である東アルプス地域において、資本主義化にともなって山岳地域住民社会の構成原理と共生の論理の変化を明らかにする。

４．研究成果

以上の方法によって、本研究では、19 世紀半ばから 20 世紀前半において、ヨーロッパでもっとも頻繁に、軍事力をともなう稀な強度で国境編成と再編、国民化の運動を経験したアルペン-アドリア地域において、近代化・資本主義化の経験や、戦争・外交による国境の再編成に際する住民の生活実態の変化を、それに対する住民の主体的戦略に注目し、「ネイション（国民）帰属への無関心」テーゼを参照しながら分析を行った。

ディシプリンとしての歴史学が、叙述の際に陥りがちな集合的かつ静態的なネイション（国民）記述を再検討する可能性をもつ同テーゼでは、ボーダーランドの住民たちは、ネイション（国民）化政策として提示された福利をみずからの利益を最大化するために利用したのであって、ネイション（国民）への文化的・心理的同一化を基準としたのではないとされる。本研究を通じて、19 世紀末から 20 世紀前半の当該地域において、同テーゼが一定程度妥当していたことが明らかになった。

本研究の成果としては、

(1) 国内では研究蓄積が厚いとはいえない当該地域について、知見を蓄積できたこと。具体的には、当該ボーダーランドにおいては、言語の多様性が文化の多様性を表さず、複数の言語を使用しつつ比較的均質的な文化のもとに住民が生活するという特性がありながら、ナショナリズムという思想的運動が、言語に依拠することによって地域社会の分断を図ってきたこと、それに対して住民が経済的・社会的利益の予測に基づいて戦略的に選択を行ってきた実践があることが明らかになった。
(2) 第二に、そのようなローカルなレベルでの住民の戦略的実践に着目すると、住民の選択に対して、武力紛争や人種主義、ジェンダー、階級といった要素が交差するとき、特定の国民への帰属が倫理的な力として作用し、行為主体の選択の幅を著しく狭める様相を見いだすことができた。これは「ネイション（国民）帰属への無関心」が十分に説明できない歴史的局面であり、それが明らかになったことは、本研究の大きな成果である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　20　件）

① ODAWARA Rin, ‘Violence against Women and the Racist Discourse during the WWI in Italy’ in *Quadrante* [Tokyo University of Foreign Studies, Institute for Global Area Studies] no.19, 9-16, 2017 **【査読無し】**

② SHINSENJI Yuki, ‘Memories of Resistance in the Alpine Borderlands: The 70th Anniversary of Liberation in Bolzano’ in *Quadrante* [Tokyo University of Foreign Studies, Institute for Global Area Studies] no.19,17-21, 2017 **【査読無し】**

③ SUZUKI Tamami, ‘Local Reaction to Option in South Tyrol: Reconsidering Nationality in Local Society’ in *Quadrante* [Tokyo University of Foreign Studies, Institute for Global Area Studies] no.19,23-30, 2017 **【査読無し】**

④ FURUKAWA Takako, ‘Continuity between Liberalism and Nationalism in Interwar Austria from the Viewpoint of Alpine-Tourism’ in *Quadrante* [Tokyo University of Foreign Studies, Institute for Global Area Studies] no.19,31-42, 2017 **【査読無し】**

⑤ FUJII Yoshiko, ‘Liberalism for German Farmers in Lower Styria at the End of the 19th Century: In the Case of the Bauernrverein Umgebung Marburg’ in *Quadrante* [Tokyo University of Foreign Studies, Institute for Global Area Studies] no.19,43-48, 2017 **【査読無し】**

〔学会発表〕（計　32　件）

① **藤井欣子「農民たちの境界意識—世紀転換期の領邦シュタイアーマルクを例に」「〈境界〉観念—その多義性と多様性」**2019 **年**

② ODAWARA Rin, ‘Forgotten women in the memory and history: from the cases during the WWI in Italy’ in International Workshop ‘Empire and its legacy’ [Central European University, Budapest], 2018

③ **鈴木珠美「ティロール南部における国籍・移住選択の推移**—1940 **年代初頭の地域住民の動向を中心に」イタリア近現代史研究会全国大会、**2017 **年**

④ **秦泉寺友紀「国境地域における歴史認識をめぐる戦略—イタリア・南ティロールの事例」日本社会学会大会、**2016 **年**

⑤ **古川高子「戦間期オーストリアにおけるアルペンツーリズム—政治的冷淡さの視点から」**国際学会「ヨーロッパのプレイグラウンド——戦前ドイツ・オーストリアのマウンテンスポ**ーツと山岳映画のイデオロギー再考」**2016 **年**

〔図書〕（計　10　件）

① **秦泉寺友紀「イタリア・ランペドゥーサ島にみる観光におけるイメージの位相」**（7-28p）**李明伍・臺純子編著『国際社会観光論』志學社、**2018 **年、全** 218p

② **藤井欣子「今はなきマイノリティ—ドイツ系住民」**（136-141p）**「ケルンテンのスロヴェニア人—民族意識と生活環境」**（151-156p）**柴宜弘、アンドレイ・ベケシュ、山崎信一編『スロヴェニアを知るための** 60 **章』明石書店、**2017 **年、全** 372p

③ **小田原琳「〈境界〉を創りだす力—南イタリアから立てる近代への問い」**（203-221p）**東京歴史科学研究会編『歴史を学ぶ人々のために—現在をどう生きるか』岩波書店、**2017 **年、全** 323p

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：

国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
近現代アルペン–アドリア・ボーダーランドにおける国境編成と住民論理のポリティクス
http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ifa/border/b_top.html

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：鈴木 珠美
ローマ字氏名：SUZUKI, Tamami
所属研究機関名：東京外国語大学
部局名：大学院総合国際学研究院
職名：研究員
研究者番号（8 桁）：20641236

研究分担者氏名：藤井　欣子
ローマ字氏名：FUJII, Yoshiko
所属研究機関名：東京外国語大学
部局名：大学院総合国際学研究院
職名：研究員
研究者番号（8 桁）：30643168

研究分担者氏名：秦泉寺 友紀
ローマ字氏名：SHINSENJI, Yuki
所属研究機関名：和洋女子大学
部局名：人文学部
職名：准教授
研究者番号（8 桁）：60512192

研究分担者氏名：古川　高子
ローマ字氏名：FURUKAWA,Takako
所属研究機関名：東京外国語大学
部局名：世界言語社会センター
職名：助教
研究者番号（8 桁）：90463926

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。